

# 1月の生活表

2022年 1月  
聖マリア幼稚園

月主題：じっくりと

・保育日数（15日）（18日）

月目標：

（3歳）・友だちや保育者と礼拝を守り、聖書の話により親しむ。

・お正月の遊びに触れたり、新しいことに興味を広げ繰り返し取り組む。

（保）息の白さや、冷たい風、霜柱など保育者自身の気づきを大切にしながら、子どもと共に冬の自然を感じて遊ぶ。

（4・5歳）

・クリスマスからつながる平安と喜びの中、イエスさまのみことばを心にとめて歩む。

・好きな遊びにもそれまで経験していなかった遊びにも楽しさを見出し、繰り返しじっくりと取り組んで得る満足感を明日へと続けていく。

・友だちと相談しながら、時間をかけて思いを実現してしていく過程を楽しむ。

・冬から春に向かう自然を感じながら、屋外で心身を動かし、友だちと交わって過ごす。

2022年 新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

京都の底冷えを迎える頃になってきました。大雪でお困りの方々にはお見舞い申し上げます。

さあ今年度もあと46日で修了です。緑組は大きな環境の変化に向かってカウントダウンです。赤組は学ぶ機会を得て憧れの年長組へ向かいます。花組は慣れ親しんだお部屋から階下へと環境が変わります。子どもたち同士の縦の関係の紡ぎとは別に、嬉しさと共に緊張の日々を迎えるかもしれません。しかしそれぞれが経験してきた9ヶ月は4月に向かうこれからの日々「順応」という言葉を持ってしっかり自覚し、進級へと向かってくれるに違いないと思っています。でも、お友だちや先生との関係を思い返した時、その小さな心で感じ取っていること、頭で考えていることはうまく表出しない場合もあるでしょう。もしかしたらドキドキの中にあるやもしれません。でも「大丈夫!!」先生やお友だちがきつと添ってくれるでしょう。そして、今はどんな気持ち？とお家の方に気づいて頂き、幼稚園と連携してお子さんを守ることを心がけたいと思います。お気づきになられた時には担任の方まで遠慮なく情報をお寄せ下さい。またスムーズな進級・入学の為には残りの日々を大切に、いっぱいお友だちと遊び込んで欲しいのです。お正月での経験やこの季節にしか経験できない遊びを発見し、創り出し、友だちと心ゆくまで遊びを楽しんでほしいと願っています。緑組の入学に於いては、「同じクラス」になるという安心材料を小学校は可能な限り考えて下さいます。しかし右代表での入学もあります。心配ですね。その為にまずは規則正しい毎日を過ごし、自身で判断し、人への気づきを含みつつ行動してほしいと思います。朝の思う存分の遊びをじっくり楽しみ、各々が繋がっておいて下さい。更に後輩たちに伝授すること、されることを遊びを通して授受しつつ、今を精一杯伸びやかに過ごして欲しいと願います。「ハア!」と吹く白い息を楽しみつつ、緑組が植えた球根の芽から花が咲き誇る時の皆さんの進級・入学が心よりお祝いできますように。惜しみながら前進致しましょう。今年も神様のお守りのうちに!!

月間主題：じっくりと

月聖句：子よ、元気を出しなさい。（マタイによる福音書 9：2）

あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

年末年始は、各地で大雪が降り、交通を始め、生活の様々な面で混乱が起きています。不便な生活を強いられて居る人々、不安や困難な状況に置かれている人々のために祈りしたいと思います。

さて、年の初めの聖句は、「子よ、元気を出しなさい」が選ばれています。これは私たちを励ましてくれる、うれしい言葉です。けれどもこの言葉を、苦々しく聞く人もいました。

イエス様の所に、人々が中風の人を運んできました。イエス様はその人に言いました。「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される。」当時、病気は、本人がなにか悪いことをした罰だと考えられていたようです。

だから、罪の赦しを宣言することは、その人を励まし、元気付けることでもありました。ところがそれを聞いた律法学者たちは、「罪を赦すのは神様だけ。イエスは神様を冒瀆している」と考えました。イエス様は彼らに「『あなたの罪は赦される』というのと『起きて歩け』と言うのとどちらが優しいか。」と言った後で、中風の人に言いました。「起き上がって、家に帰りなさい。」するとその人は、本当に起き上がり歩き出しました。人々は驚きました。神様の教えは、人々を幸せにするためにあります。「罪の赦しの権威はどこにあるか」という議論は、理屈であって、そこに愛はありません。

イエス様は、人々を救うためにのみ活動し、ただひたすら人を愛されました。私たちは時に、様々な課題に気を取られ、本当の目的を見失うことがあります。

折々に、本来の方向へ立ち返りたいと思います。幼稚園は、ただ子どもたちの幸せのために存在し、ひたすら子どもを愛するのが使命です。

## おたんじょうび おめでとうございます

### <生活指導>

☆ 自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

- ・風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の変化、登降園途中の様々な発見を大切に、冬の訪れを感じてみましょう。

☆ 自分で出来る事は自分でやってみましょう。

- ・上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。『〇〇して下さい。』とのお願いのことばを添えて。
- ・自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・自宅ではフックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞆を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆ 健康管理に留意しましょう。

- ・未だ収束の兆しが見えないコロナです。引き続いて早寝早起き、食事、そして手洗い、うがいマスクの着用、手指の消毒など、気を抜くことなく予防に心がけましょう。
- ・暖房器具の扱いを的確にしましょう。（換気と乾燥）
- ・子ども達の肌の感覚を養いましょう。（寒い外気に触れ、抵抗力をつけましょう。）

☆ 家の中で、お手伝いをさせましょう。（暮れのお手伝いが生かされるように）

### <クラスだより>

#### 花組

「あけましておめでとうございます！」と、愛らしい新年のご挨拶と共に3学期を迎えることができました。何とも恥ずかしそうで、でもご挨拶をしていることが誇らしいような…ご挨拶をし合い、改めて新年を迎えたことを感じ、喜び分かち合う。とても大切なことだと思います。常日頃、大人の思いや行い・言葉（発言）を見聞きして学習していく子どもたち。それを自分なりに行いや言葉にしていきますが、自ずとその経験が多ければ多いほど、子どもたちの知識や社会常識を身につけることに比例します。いかに、その経験を豊かに沢山与えてあげられるのか、それは子どもたちの周りにいる私たち大人の役目と考えると改めて身の引き締まる思いが致します。

2022年は、子どもたちにとってどのような年になるのでしょうか。三学期は、あっというんです！赤組・花組への進級を見据えながら、一日一日を大切に丁寧に過ごしていきたいと思えます。依然、新型コロナウイルスの終息の見通しは立たず、私たちは目の前にいる子どもたちの安全で健全な毎日をまず守ること、子ども達の健康管理の面では、ご家庭と密に連絡・連携を取らせていただきたいと思いますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。どんな状況にあっても目の前の子ども一人ひとりの今と向き合いながら、毎日神様に守られてい

ることに感謝し安心して歩んでいきたいと思えます。どうぞよろしく願い申し上げます。

### 赤組

「あけましておめでとうございます」久しぶりの幼稚園で恥ずかしそうに新年の挨拶をしてくれたり、特別な挨拶が言えるのが嬉しくて何度もご挨拶をしてくれたりした子もいました。こうして顔を見て挨拶できるのは嬉しいことですね。そんな挨拶とともに届いたアドベントカレンダー。

「ここはね、本当はちょっとお約束守れていないけれどね」と素直に教えてくれた子もいましたが、毎日違うお約束を頑張って守っていた子、みんなのためにとお祈りしていた子、それぞれが気持ちのいいお心でクリスマスを迎えたことがカレンダーから伝わってきました。3学期初日にみんなのカレンダーが揃うというとても気持ちの良い日となり、みんなの気持ちがこもったカレンダーをみんなで見せ合いたいと思ひ、赤組さんのお部屋にお飾りしています。

こうして赤組としての最終学期である3学期が始まりました。その先には幼稚園で一番大きな緑組がすぐそこに待っています。お手本を見せてもらう立場から、自分達がお手本になる立場になります。今までお兄さんお姉さんが、自分たちのために、みんなのためにどんなことをしてくれていたのか、気付く機会にもなりますね。いつも先頭を歩いてくれている緑組に感謝しながら、「こんな緑組になるぞ」という気持ちを持ち、進級を楽しみに準備していきたいと思ひます。そして花組さんにも、「こんな赤組になりたい！」と思ってもらえる赤組の姿を見せてほしいと思ひます。風邪やコロナに負けずに、3学期も元気な赤組さんと共に過ごせる毎日を楽しみたいと思ひます。今年もどうぞよろしく願い致します。

### 緑組

明けましておめでとうございます。2022年の幕開けは寒波と共に訪れ、初日の出が雪に映える美しい元旦となりました。新たな一年の始まりに、皆さまのご健康とご多幸を改めてお祈りいたします。

さて、今年度も卒園式まで今日を入れて46日となりました。日数に起こしてみると余りの少なさにハッとされる方も多いのではないのでしょうか？子どもたちはというと、3学期初日に「あなたたちの卒園式まで48日です。48回来たら、幼稚園はもうおしまい！ということですよ。今日から一日ずつ、幼稚園に来る日は減っていくのだよ？わかる？」と話しかけました。すると「少なあ〜…」とポツリ「えっ？」と目を開いて…みんな一様に驚いていました。お家でも「小学校ってどんなところ？教えてよ」と卒園後を見据えて、お家の方に尋ねていたお子さんがいらしたそうです。幼稚園に行くことが当たり前だった日常が、あと46日後には変わるのですね。自転車や車に乗っての登園も、週2回のお弁当作りも、園庭で遊びを見守る時間も、手を繋いで歩く道も…お家の方と共に「幼稚園」を中心とした生活が新しい毎日へと繋がって行きます。「終わり」から「始まり」へ。緑組の子どもたちのまっすぐに「突き詰める力」を就学にむけて、各々の好きなもの「魚」「昆虫」「鬼滅」「鬼ごっこ」…etcの知識が他の興味関心ある物事と結びつき、広がりのある世界へ想像、展開していけるように、貴重な結びの時間を紡いでいきたいと思ひます。

ご家庭に置かれましては、お忙しいことかとお察しいたします。しかしながら、子どもたちが「子どもでいられる時間」には限りがあります。そして「もう一度」もありません。子どもたちが新たな社会に出て、自分の力で大事なことを取捨選択できる判断力と思考力を養うためには、子

どもたちの「今」と向き合い「育ち」について考えていただくことは不可欠です。お子さんが良くも悪くも、躓き悩んだ時・必ずしも願い通りにならない現実と直面した時、それを乗り越える精神力、そして人との関わりについての学びも、やはりお家の方の力がまだまだ必要です。多様化する社会、多様化する価値観の中にあって「自主自立」はこれからの時代に必要なスキルですね。願うことは、どこにいても、どんな人であっても…相手のことを知ろうとする温もりを忘れないでいてほしいと思います。その心を育てるのは「自分は愛されている」ということだと思います。卒園までの限られた時間の中、私たちも「愛」をもって子どもたちと過ごしていきたいと思えます。どうぞ、今学期もよろしく願い申し上げます。

Up